

長畝ふるさと通信



【2024年7月号】

■ 空の時代が来た！



先月、遅めに入った梅雨は昨年とは違い、結構な雨をもたらしてくれました。おかげで稲の生育は順調で、現時点で目標の草丈、葉色、株数ともクリアしています。それでも、8月に入ると昨年並みの酷暑となる見込みなので、後期のスタミナ補給のためしっかりと穂肥を打って備えています。ドローンの導入で散布作業は楽ちんになりましたが、3m以上の風が吹くとドローンの飛行に影響が出るため、風のない早朝5時から作業をしています。8月のカメムシ防除も共済組合を頼らず自前で実施することにし、反対に防除作業を外部から受託して事業の幅を広げています。

先日、全国農業改良普及支援協会からドローン導入に関する取材を受けました。散布作業を動画撮影し、今後の普及活動資料とするとの事で、遂に我が社も全国デビューです。インタビューは長かったけど殆ど使われないんだろうな～。



■ 耕畜連携・地産地消の取り組みとして

佐渡の酪農家との協議で、今年から飼料用のトウモロコシを栽培しています。輸入飼料が高騰する中、島内で飼料供給できないかとの相談を受け、大豆圃場の一部をトウモロコシに向けることにしました。8月末に収穫し茎・葉・実の全てを粉碎してサイレージ(乳酸発酵)します。播種と収穫



は酪農家がやるので我々は生育管理のみで大豆より手間がかかりません。何よりも島内酪農の手助けができるという点がGOODです。本格的に導入すると専用のコンバイン等が必要になりますが、そこは行政も巻き込んで今後の課題したいと思います。酪農家の後継者不足は水稲よりもさらに深刻で、このままでは佐渡から牛がいなくなる可能性もあるとか・・・一助となれば幸いです。

■ 佐渡金山が世界文化遺産に



世界遺産の候補地となって14年、紆余曲折ありましたが、ようやく登録されました。登録が決定した7月27日には全国放送で賞賛が伝えられましたが、島民はどう感じているのでしょうか。観光業は一時的に盛り上がるでしょうが、島民の経済の根幹である農業への影響はいかほどか。トキの野生放鳥から早20年、当時も島民が歓喜しトキ認証米が全国的に認知されましたが、残念ながらわずか5年でピークを迎えてしまいました。これを機に佐渡をどういう島にしていくのか、真剣な議論と具体的な行動が求められています。コメ百姓も令和のコメ騒動を機に改めて将来像を描く段階に来ています。頭の痛いことばかりですが、一時はパリ五輪でも見てリセットしますか。

■ 会員の皆様には令和6年産米の予約案内を同封いたします。引き続きご愛顧くださいます様、心からお願い致します。おかわりは自由です。

